

ペニシリンアレルギーの方のピロリ菌の除菌治療

消化器疾患の専門クリニックですので、他院と異なり、ペニシリンアレルギーの方のピロリ菌除菌治療もおこなっています。保険がききませんので自費治療になります。ペニシリン以外の抗生物質アレルギーをお持ちの方もありますので、各個人の抗生物質アレルギーの種類により、下記の薬を使い分けています。

処方①

PPI (プロトンポンプインヒビター)

STFX (シタフロキサシン：商品名グレースビット)

MNZ (メトロニダゾール)

STFX のほか、レボフロキサシンも除菌薬としては有用な薬剤ですが近年耐性の増加が言われています。ニューキノロンの耐性獲得はDNAジャイレースのAサブユニット遺伝子の変異によるといわれています。これらの変異があるにもかかわらず、STFX 等は強い抗菌活性を示すことが報告されており、効果が期待されます。

処方②

PPI (プロトンポンプインヒビター)

CAM (クラリスロマイシン)

MNZ (メトロニダゾール)

ただし、近年のCAM の耐性菌により除菌率が低下してきています。

処方③

PPI (プロトンポンプインヒビター)

MINO (ミノサイクリン)

MNZ (メトロニダゾール)

ミノサイクリンにはほとんど耐性株がないとも言われており、2次除菌として行うことにより、より高い除菌率が得られると考えられます。アモキシシリンアレルギーやペニシリンアレルギーさらには下痢傾向が強い患者様に用いることが可能となってきます。